

IPCC 第 5 次評価報告書 第 1 作業部会報告書 政策決定者向け要約（気象庁訳）正誤表

(2015 年 12 月 1 日追加修正)

D.2 気候モデルの応答の定量化 14 ページ 簡条書き 2 番目 4 行目

(誤) ...、1°C以下である可能性は極めて低く(高い確信度)、また 6°Cを超え...

(正) ...、1°C未満である可能性は極めて低く(高い確信度)、また 6°Cを超え...

(2015 年 7 月 1 日追加修正)

B.1 大気 3 ページ 簡条書き 4 番目 1 行目

(誤) 大陸規模の地上気温の復元によると、高い確信度で、中世気候異常（950 年から 1250 年）の期間...

(正) 大陸規模の地上気温の復元によると、高い確信度で、中世気候異常期（950 年から 1250 年）の期間...

B.1 大気 5 ページ 表 SPM.1 表キャプション 1 行目

(誤) ...太字は、第 5 次評価報告書（黒）において『気候変動への...

(正) ...太字は、第 5 次評価報告書（黒）において「気候変動への...

B.1 大気 5 ページ 表 SPM.1 注釈 (h)

(誤) ...、地域規模から世界規模の予測では土壌水分が減少し農業早魃が増加する...

(正) ...、地域規模から世界規模の予測では土壌水分が減少し農業干ばつが増加する...

C. 気候変動をもたらす要因 11 ページ 脚注 14 5 行目及び 7 行目

(誤) ...迅速な調整メカニズム...

(正) ...迅速な調節メカニズム...

C. 気候変動をもたらす要因 12 ページ 簡条書き 1 番目 1 行目

(誤) ...（エーロゾルに起因した雲調整を含む）...

(正) ...（エーロゾルに起因した雲調節を含む）...

C. 気候変動をもたらす要因 12 ページ 図 SPM.5 の図中

(誤) エーロゾルによる雲調整

(正) エーロゾルによる雲調節

E.7 炭素とその他の生物地球化学循環 24 ページ 簡条書き 2 番目 2 行目

(誤) ...確信度は高い。即ち、気候変動は、大気中の二酸化炭素の増加によって...

(正) ...確信度は高い。すなわち、気候変動は、大気中の二酸化炭素の増加によって...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2 番目 1 行目

(誤) ...気候システムを変えることを目指した方法が提案されている。...

(正) ...気候システムを変えることを目指した手法が提案されている。...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2
番目 3 行目

- (誤) ...総合的かつ定量的な評価を妨げている。CDR 法は、地球規模では...
(正) ...総合的かつ定量的な評価を妨げている。CDR 手法は、世界規模では...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2
番目 5 行目

- (誤) ...において、CDR 法によりどの程度二酸化炭素排出量を...
(正) ...において、CDR によりどの程度二酸化炭素排出量を...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2
番目 6 行目

- (誤) ...。モデル結果によれば、いくつかの SRM 法は、もし実現可能であれば、...
(正) ...。モデル結果によれば、いくつかの SRM 手法は、もし実現可能であれば、...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2
番目 8 行目

- (誤) ...抑制できないだろう。もし SRM 法が何らかの理由で...
(正) ...抑制できないだろう。もし SRM が何らかの理由で...

E.8 気候の安定化、気候変動の不可避性と、気候変動の不可逆性 27 ページ 簡条書き 2
番目 10 行目

- (誤) ...。CDR 法及び SRM 法は世界規模で副作用や長期的な影響をもたらす。
(正) ...。CDR 手法及び SRM 手法は世界規模で副作用や長期的な影響をもたらす。

【訳注】 28 ページ A 7 行目

(誤) A (p. 2) 原文では“climate change”と記されており、付録 III:用語集では以下のよう
に定義されている。『気候変動とは、ある特性の平均や変動性の変化によって（例
えば、統計的検定を用いて）特定され、一般的には数十年かそれよりも長い期間持続
する、気候状態の変化を指している。気候変動は、内部過程、あるいは太陽周期の変
調、火山噴火、大気組成や土地利用の人為的な持続する変化などの外部強制力に起因
していると考えられる。なお、気候変動枠組条約（UNFCCC）は、その第1条で、気
候変動を「地球の大気の組成を変化させる人間活動に直接又は間接に起因する気候の
変化であって、比較可能な期間において観測される気候の自然な変動に対して追加的
に生ずるもの」と定義していることに留意されたい。このように、UNFCCC は大気
の組成を変化させる人間活動に起因した気候変動と、自然要因に起因する気候の変動性
を区別している。』

(正) A (p. 2) 原文では“climate change”と記されており、付録 III:用語集では以下のよう
に定義されている。『気候変動とは、その特性の平均や変動性の変化によって（例
えば、統計的検定を用いて）特定され、通常は数十年かそれよりも長い期間持続する、
気候状態の変化を指している。気候変動は、自然起源の内部過程、あるいは太陽周期
の変調、火山噴火そして大気組成や土地利用における絶え間のない人為起源の変化と

いった外部強制力に起因している可能性がある。なお、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）は、その第1条において、気候変動を「地球の大気の組成を変化させる人間活動に直接又は間接に起因する気候の変化であって、比較可能な期間において観測される気候の自然な変動に対して追加的に生ずるものをいう。」と定義していることに留意されたい。このように、UNFCCCは大気の組成を変化させる人間活動に起因する気候変動と自然要因に起因する気候の変動性を区別している。』

【訳注】 28 ページ M 7 行目

(誤) ...地表面におけるゆっくりとした調整過程があるため、...

(正) ...地表面におけるゆっくりとした調節過程があるため、...

(2015年1月20日修正)

A 序 2 ページ 脚注 2 4 行目

(誤) ...、「どちらかと言えば」：発生確率が 50～100%、

(正) ...、「どちらかと言えば」：発生確率が >50～100%、

B.1 大気 簡条書き 3 ページ 6 番目 4 行目

(誤) ...。{TS TFE 訳注 B.1 図 2、**図 2.5**}

(正) ...。{TS TFE 訳注 B.1 図 2、2.5}

B.2 海洋 簡条書き 6 ページ 3 番目 4 行目

(誤) ... (図 SPM.3)。...

(正) ... (図 SPM.3 **を参照**)。...

B.3 雪氷圏 簡条書き 7 ページ 4 番目 2 行目

(誤) ...夏季の海氷面積の最小値 (**多年氷**) の...

(正) ...夏季の海氷面積の最小値 (**多年性の海氷**^{訳注 D}) の...

B.3 雪氷圏 簡条書き 7 ページ 5 番目 3 行目

(誤) ...、一部地域では面積が増加、一部地域では減少している。

(正) ...、**面積が増加している地域もあれば、減少している地域もある。**

B.4 海面水位 簡条書き 9 ページ 3 番目 3 行目

(誤) ...海面水位の上昇は観測に基づく寄与の...

(正) ...海面水位の上昇は**下記の**観測に基づく寄与の...

B.5 炭素とその他の生物地球化学循環 簡条書き 10 ページ 1 番目 2 行目

(誤) ...8.3 [7.6～9.0] GtC¹²、2011 年に...

(正) ...8.3 [7.6～9.0] GtC¹² (**高い確信度**)、2011 年に...

E.2 大気：水循環 簡条書き 21 ページ 4 番目 2 行目

(誤) ...主要なモードのままである **可能性が非常に高い**。...

(正) ...主要なモードのままである **ことの確信度は高い**。...

E.3 大気：大気質 簡条書き 22 ページ 2 番目 2 行目

(誤) ...地域規模の化学過程のフィードバックや**地域的**な排出を...

(正) ...地域規模の化学過程のフィードバックや**局所的**な排出を...

【訳注】 28 ページ A

訳注 A を以下の文章に差し替える。

A (p. 2) 原文では “climate change” と記されており、付録 III:用語集では以下のように定義されている。『気候変動とは、ある特性の平均や変動性の変化によって（例えば、統計的検定を用いて）特定され、一般的には数十年かそれよりも長い期間持続する、気候状態の変化を指している。気候変動は、内部過程、あるいは太陽周期の変調、火山

噴火、大気組成や土地利用の人為的な持続する変化などの外部強制力に起因していると考えられる。なお、気候変動枠組条約（UNFCCC）は、その第1条で、気候変動を「地球の大気組成を変化させる人間活動に直接又は間接に起因する気候の変化であって、比較可能な期間において観測される気候の自然な変動に対して追加的に生ずるもの」と定義していることに留意されたい。このように、UNFCCCは大気組成を変化させる人間活動に起因した気候変動と、自然要因に起因する気候の変動性を区別している。』

【訳注】 28 ページ D

以下の訳注を追加するとともに、既存の訳注D～Mを訳注E～Nに修正。

- D** (p. 7) 原文では“perennial sea ice”と記されている。一夏以上経過した海水で、二年氷（second-year ice）と多年氷（multi-year ice; 二夏以上経過した氷）の両方を含む。

※ このほか、漢字等の表記を揃えるよう修正している。